令和６年　９月　６日

令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年	国語　178人	社会　179人	数学　179人
	理科　179人	英語　179人	

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

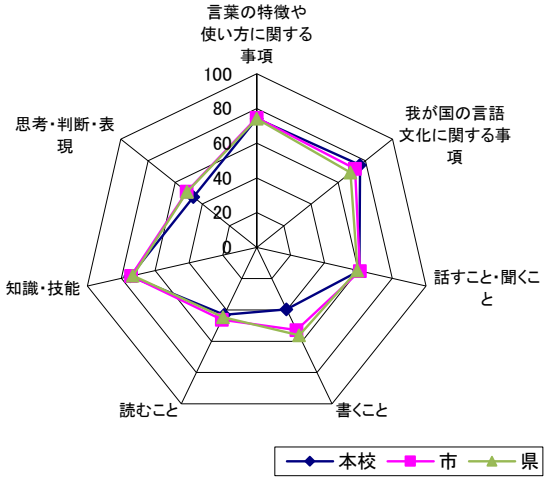
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	76.1	72.5	69.1
	話すこと･聞くこと	60.7	60.9	59.5
	書くこと	39.6	52.8	56.2
	読むこと	43.1	46.2	44.5
観点	知識･技能	74.6	74.2	73.1
	思考･判断･表現	46.6	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

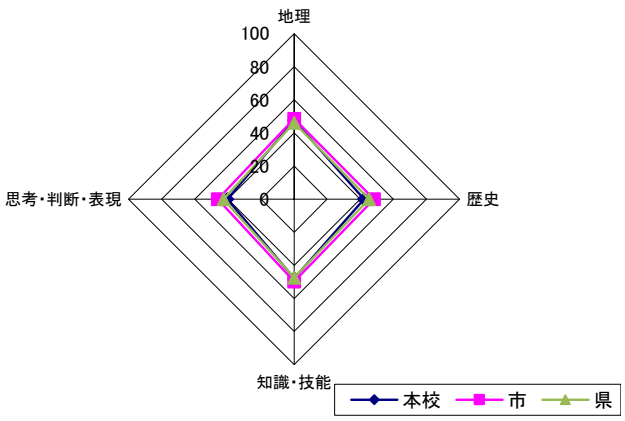
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○小学校で学習した漢字を正しく書くことはほぼできている。 ●小学校までに学習した漢字を正しく読むこと、敬語の働きについての理解、文節の関係について理解に課題がある。	･今後も漢字の読み書きのテストなどを通して、正しく漢字を理解できるようにする。 ･敬語の働きを正しく理解できるように、日々の生活の中で敬語を使用して正しく使えるように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より3.6ポイント上回っている。 ○漢字の行書の基本的な書き方の理解は6.9ポイント上回っている。歴史的仮名遣いは0.5ポイント上回っている。	･今後も書写の授業を通して、行書や楷書などの基礎知識を身に付けさせる。また、歴史的仮名遣いは古文を学習する際に、歴史的仮名遣いに注意を払いながら文章を読ませるなど工夫しながら指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる」は3.7ポイント上回っている。「必要に応じて記録しながら話の内容を捉える」は1.3ポイント上回っている。 ●「自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考える」は3.6ポイント、「話題や展開を捉えながら話し合い互いに発言を結びつける」は2.5ポイント下回っている。	･話し合いの内容を必要に応じて記録しながら正確に聞き取り、自分の考えを持ち、話題の展開を捉えながら話し合いを行うような場面を増やす。また、他人の考えを聞き、積極的に自分の意見を発表できるような雰囲気作りも行う。
書くこと	平均正答率は、市の平均より13.2ポイント下回っている。 ●「指定された長さで文章を書く」は14.2ポイント、「2段落構成で文章を書く」は13.8ポイント、「読み取った内容を明確にして書く」は9.8ポイント、「自分の考えを根拠を明確にして書く」は15.2ポイント下回っている。	･今までに自分が体験したことや知識を基に文章を書く時間を増やしたり、朝の読書で多くの文章に触れさせて語彙力を伸ばし、自分の考えが正確に伝わるように文章の構成を考えさせたりする。また、自分の考えの根拠を明確にして、その根拠が適切かどうか考え、文章の推敲を繰り返して説得力を高める文章を書く時間を確保する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より3.1ポイント下回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈する」、「文章の内容について叙述を基に捉える」は市の平均を上回った。 ●「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」、「場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉える」、「表現の効果について、根拠を明確にして考える」は下回った。	･説明文では、接続詞や指示語に目を向けさせながら筆者が伝えたいことはどんなことなのかを考えながら読み取らせる。また、多くの文章に触れ、文章の構成や展開について考える時間を増やしていく。文学的文章では場面の展開や登場人物の心情の変化を、「いつ、どこで、だれが、何をしたか」を文章中の情景や登場人物の言葉から読み取る方法などを伝えて読み取る力を身に付けさせる。

宇都宮市立雀宮中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	47.5	48.6	46.2
	歴史	42.3	48.3	45.3
観点	知識・技能	47.9	49.8	47.5
	思考・判断・表現	40.3	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

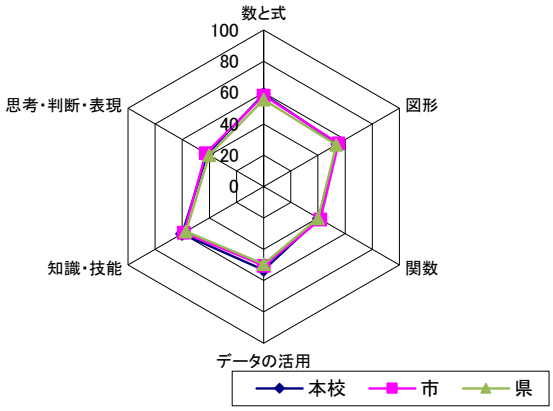
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○平均正答率は市の平均を1.1ポイント下回っており、県の平均は1.3ポイント上回っている。 世界と日本の地域構成や世界の諸地域について，おおむね理解できている。そのため，各州の重要な特徴について選択・記述したりする問題の正答率が高くなっていることや、時差についての仕組みを理解して正しく選択している生徒も多い。 ●複数の資料から読み取れる内容を関連づけて考察することや，グラフ（特に雨温図）を区別する問題を苦手にしている生徒が多い。また，地形等について正確な位置を把握することや気候の特色に対する理解が低いことも課題である。	・グラフの読み取りだけでなく，複数のグラフの比較を授業の中で行っていくことで課題解決に向け取り組んでいく。また，既に学習した知識と関連させた授業展開に努め，多面的・多角的な理解を深めるよう指導を行う。 さらに、気候の特色についての理解や、それに関するグラフの読み取りについても指導していく。
歴史	平均正答率は市の平均を6.0ポイント，県の平均を3.0ポイント下回っている。 ○古代の日本（特に縄文時代）について，遺跡から出土したものから読み取れることから当時の人々の生活の様子を理解している。 ●歴史的事象について，その背景や周りに与えた影響など、歴史の流れにそった理解が不十分である。また，中世（平安後期から室町時代）など時代が進むにつれて苦手を感じる生徒が多い。	・年表を活用しながら，既に学習した人物や出来事の関連を踏まえ，ストーリー性をもった指導を行う。なぜそのような政策が行われたかなどの理由となる部分の意識付けを指導していく。また，ある人物が行ったことなどについて，教員側が一方的に教え込む指導だけでなく，自ら調べさせたり，ペア学習を用いたり、図表を活用したりするなどの工夫を行う。

宇都宮市立雀宮中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	59.0	58.2	55.5
	図形	54.4	55.1	53.5
	関数	40.8	41.9	40.2
	データの活用	53.2	50.5	49.4
観点	知識・技能	60.1	58.8	57.3
	思考・判断・表現	41.7	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

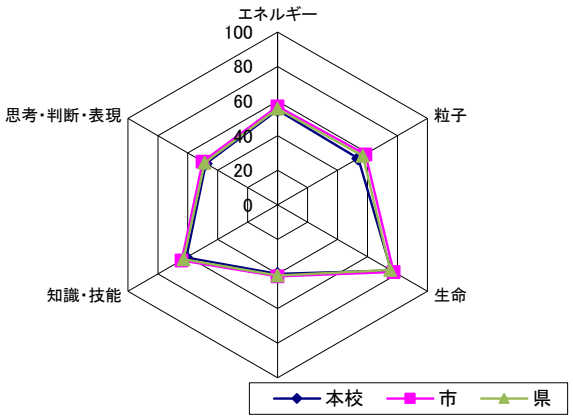
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は，市の平均より0.8ポイント，県の平均より3.5ポイント上回った。 ○１次式の減法の計算や，１次方程式の計算や立式についての問題は，よくできていた。 ●間違った回答を選び，それを正しく自分の言葉で答える問題に課題が見られた。	・文章をもとに数量の間の関係を等式や不等式で表すことを苦手に感じている生徒は多い。文字を具体的な数に置きかえて，どんな式で表すことができるかを確認してから，文字を使うなど丁寧に指導していく。
図形	平均正答率は，市の平均より0.7ポイント下回ったが，県の平均より0.9ポイント上回った。 ○おうぎ形の弧の長さや面積，円柱の側面積を求めることは，よくできていた。 ●垂線の性質を理解し，作図をすることについては課題が見られた。	・作図方法や立体の表面積や体積などの公式を暗記するのではなく，成り立ちを理解することで，その意味を理解し，活用できるように指導していく。
関数	平均正答率は，市の平均より1.1ポイント下回ったが，県の平均より0.6ポイント上回った。 ○与えられたグラフから，速さを求める問題は，よくできていた。 ●与えられた考え方や条件をもとに，正しいグラフを選ぶ問題において課題が見られた。	・問題を解決する過程を，数学の言葉を使って書いてみたり，相手に説明する時間を，授業中に適宜設けることで，数学的に説明をする機会を増やし，苦手意識を克服できるように指導していく。
データの活用	平均正答率は，市の平均より2.7ポイント，県の平均より3.8ポイント上回った。 ○資料からヒストグラムやデータを読み取る問題はよくできていた。 ●データの傾向について，相対度数を使って説明する内容に課題が見られた。	・計画的に様々な問題に取り組ませることで，平均値や最頻値などの用語の意味だけではなく，その使い方についての理解を深めさせる。また，根拠を明らかにして説明する活動を，授業内で意図的に取り入れて指導していく。

宇都宮市立雀宮中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	54.9	57.0	55.7
	粒子	53.8	58.6	56.9
	生命	75.8	77.5	75.2
	地球	39.9	41.4	40.9
観点	知識・技能	61.0	64.1	62.8
	思考・判断・表現	47.9	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

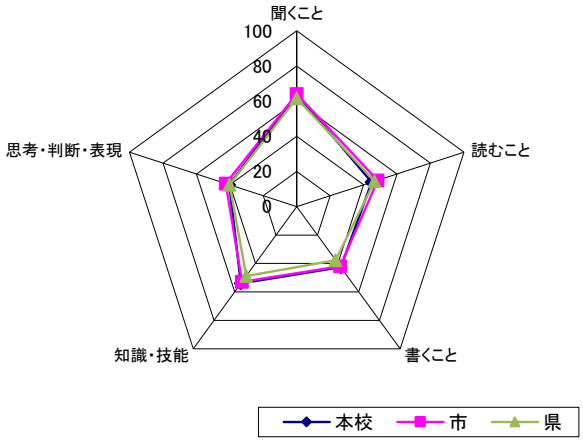
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均より2.1ポイント低い。 ○ばねののびと力の大きさのグラフが比例のグラフであるという知識はおおむね身に付いていた。 ●音の速さを使って音源までの距離を求める問題では、無回答が多く見られた。 ●ばねの実験についての考察で正誤を判断し、誤った箇所を指摘する問いでは、正誤の判断と理由をともに正答していないものが多く見られた。	・力のはたらきの分野では、実験結果のグラフ化、規則性の発見、フックの法則の活用とつながっていくので、生徒が行った実験で得た結果を活動の中で見出せるよう、見通しをもって授業を行う。 ・計算に抵抗を感じる生徒が多く、「式を理解する」「式を立てる」「割り算をする」と様々なつまずきがある。ドリル式の練習問題などの課題を積極的に取り入れながら、質問しやすい授業展開を工夫する。
粒子	平均正答率は、市の平均より4.8ポイント低い。 ○ほとんどの生徒が、実験を行う時の危険な行動を理解している結果となった。 ●水溶液の温度を下げても結晶がほとんど現れない理由を説明する問題で、正答率がかなり低く、また、無回答が多く見られた。溶解度のグラフの読み取りでの理解が不十分であると考えられる。	・実験を行う前に、注意事項の確認を徹底する。 ・実験の結果から溶質の種類によって溶解度が異なることを見出し、溶解度のグラフの理解につなげられるように、実験後の考察やまとめをより丁寧に扱う。 ・数値の処理(計算)、グラフ化、処理した数値やグラフの考察をグループでの作業や話し合い、意見交換などの活動で教え合いながら理解できるように工夫する。
生命	平均正答率は、市の平均より1.7ポイント低い。 ○4つの区分の中で最も正答率が高く、基本的な知識が身に付けており、正しい選択、記述が他より多い。 ●ライオンの犬歯が獲物を捕らえるのに都合がよい理由についての記述式の問いでは、正答が4割程度と少なかった。シマウマとライオンの犬歯は区別できるが、理由を文章で表現するところに課題が見られ	・脊椎動物の学習では、主に教科書やインターネットやテレビ番組などで得た知識に頼るところも多くあるが、今後、県立博物館からの標本の貸し出しを利用して実物を見たり、触ったりする体験を新たに設け、思考の深化を図る。 ・理科室前での生物の展示を、授業に合わせて行い、実物を観察する場面を積極的に設定する。
地球	平均正答率は、市の平均より1.5ポイント低い。 ●4つの区分の中で最も正答率が低かった。この区分の学習は、実験や観察が困難で、教科書の写真や標本に触れるなどにとどまるため、なかなかイメージがつかみにくいと考えられる。 ●堆積岩の見分け方と、二酸化炭素の発生方法について理解が低く、化学の分野で学習した内容と堆積岩の見分け方が結びつけられなかったと考えられる。	・教科書に掲載されている実験・観察・実習だけでなく、ICT機器の活用や演示、図書の紹介など、多様な方法で興味関心を高める工夫を行う。 ・授業の中で、学習内容と関連した他の分野で学習した内容を復習し、横断的な知識の活用を身に付けることができるように工夫する。

宇都宮市立雀宮中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	64.0	64.0	61.6
	読むこと	44.8	48.4	46.6
	書くこと	42.6	42.0	37.8
観点	知識・技能	54.0	52.9	48.9
	思考・判断・表現	40.3	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率が市全体と同じで，県平均を2.4ポイント上回った。 ○絵を適切に表している英文を選ぶ全ての問題で県の平均を上回った。また，選択式の問題では無解答者がいなかった。 ●対話の内容を聞き取り，適切に応答しているものを選ぶ全ての問題の平均正答率が4割程度で，県平均をわずかに下回った。	・日常的なことを話題にしたスモールトークやピクチャーカードを用いた本文の口頭導入時に，質問に適切に回答する練習を行う。 ・疑問詞の意味と使い方を反復して覚えるために，授業のウォームアップで意図的に疑問詞を用いたQ＆Aを行う。
読むこと	平均正答率は市平均より4.0ポイント，県平均より1.8ポイント下回った。 ○対話から必要な情報を読み取り，適切な日付を選ぶ問題で県の平均を1.5ポイント上回った。 ●英文から必要な情報を読み取り，答えを選ぶ問題では，全ての問題で平均正答率が5割を超えなかった。英文を読んで概要を理解し，適切なタイトルを選ぶ問題の正答率が市平均，県平均よりも6ポイント以上下回った。	・「読むこと」に重点をおいた授業で，書かれている内容の要点を考えさせ，教科書本文の要約を行い，概要を理解する練習を行う。 ・英文を読むことに慣れるために，教科書以外の英文を読む機会も与える。 ・問題文から根拠を見つけ，それに基づいて解答する力を身に付けさせるため，問題に答えた際の根拠を述べさせる指導を行う。
書くこと	平均正答率が市全体より0.6ポイント，県平均より4.8ポイント上回った。 ○空所に適切な語を選んだり書いたりする問題や語を正しい形に変える問題，英文を正しい語順で書く問題，対話の流れに合った英文を書く問題，与えられた条件に基づいて英文を書く問題で市平均，県平均を上回った。 ●市，県の平均正答率よりは高かったものの，疑問詞を用いた疑問文を書く全ての問題の正答率が2～3割程度にとどまった。聞き取ったり読んだりした内容に基づいて自分の考えを書く問題では，平均正答率が3割未満であり，無解答率が市，県と比べても5ポイントほど高い。	・自分の考えを表現する問題の無解答率が高いので，互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を充実させる。英語で意見が言えなくても，まずは自分の考えをしっかりともたせたい。考えを述べるために必要な英単語を挙げ，そこからどのよう英文を構成するかをペア活動などの協働学習を通じて解決させる。更に，相手の意見に質問したり自分の感想を加えたりしてやり取りを継続させ，やり取りした内容を文章にまとめる機会を提供し，英文を書くことに慣れさせる指導を行う。

宇都宮市立雀宮中学校 第２学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「授業での話し合い活動をよく行っている」と肯定的に回答している生徒が90．6%おり、おおむね認識されている。自ら進んで話し合いに参加すると回答した数値はやや低くなる。一方、話し合うことで自分の考えを深めたり広げたりできることは86．9%の生徒が理解している。
○「誰にでも思いやりの心をもって接している」で肯定的な解答が90．8%で、市・県とほぼ同じ高い数値を示している。「道徳は将来のために大切か」では90．8%が大切と答えている。
○「授業の目標（めあて、ねらい）が示されている」で肯定的な回答が96．6%、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動を行っている」で肯定的な回答が84．5%となっている。何を学習するのか、何がわかる(できる)ようになったのかを確認することや、話し合い活動などで授業への取り組み方が改善されていると考えられ、「授業を集中して受けている」ではほとんどの生徒が肯定的な回答をしている(91．5%)。今後さらに、主体的に学習に取り組む態度を育む指導の充実を図りたい。
○ほとんどの生徒(97．1%)が家で学校の宿題に取り組むと答えている家庭での学習内容では、授業の復習とテスト直しの実施に比べて自分で考えた学習や予習と答えた割合は低い。家庭学習の習慣は多くの生徒が身に付いていると捉えることができるが、主体的に学習に取り組む姿勢は弱い。宿題については、量についてはちょうどいいという回答が最も多いが、「やりたくなる内容か」では肯定的な回答が30%程度と低かった。今後、宿題として課す内容について各教科で研究し、学習意欲や主体的に学習に取り組む姿勢につながるよう工夫改善を行う必要がある。
●「自分の考えを文章で書く」ことを難しいと答えている割合は68．5%と市・県よりやや高い。国語科では自分の考えを文章で書く練習に力を入れているところであるが、各教科でふり返り活動や話し合い活動の前などに自分の考えを書く時間を計画的につくり、抵抗感を軽減し、また大切なことであると認識させたい。
●ふだん、勉強する時間は1時間以上2時間未満が最も多く、2時間以上と答えた割合は26．9%であった。一方、2時間以上を合計した数値で比べると、テレビ・DVD・動画は46．8%、ゲームが59．4%、メール・インターネットが42．9%であった。また、メール・インターネットの結果は、市・県の合計値より10ポイント以上高い。このことから、家庭での学習にかける時間よりスマートフォン、携帯電話、PC、タブレット等を使っている時間の方が長い傾向があることがわかる。「将来の夢や目標をもっている」で肯定的な回答が61．7%とやや低く、夢や目標に向かって段階的な目標を立てたり、時間を調整したりすることに対し、あまり意識できていない傾向がある。1日の過ごし方や学習への取り組みを定期的にふり返り、改善の機会を設け、さらに将来の夢や目標について学級活動や総合的な学習の時間などを通して話し合ったり、考える活動を充実させる工夫が必要がある。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデル(「はっきり」「じっくり」「すっきり」)を軸とした授業の実施	授業の目標(めあて、ねらい)を示し、授業中の生徒の活動(話し合いや作業)の時間を十分に確保する。また、授業の終わりまたは単元などの終わりに振り返り活動を行う。	・「授業の目標を示している」「ノートに学習の目標を書いている」「学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問では、8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。また、授業を集中して受けていると肯定的な回答した生徒が大変多い(91．5%)。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考力・判断力・表現力に関する問いと、記述式の問いで正答率が低く、無回答率が高くなる傾向が各教科で見られた。	・授業や宿題での学習内容の見直しを行う。 ・話合い活動などの生徒の活動の時間の充実、改善を図る。	・各教科で授業や宿題として、本やインターネット、新聞などで調べたり、学習したことを活用したりする課題の出し方や内容を工夫する。 ・授業で、自分の考えや意見を文章で書く時間を適切に設け、他の発表を聞く話合い活動などの時間の充実化を図る。